

令和7年度 大田区立馬込小学校 自己評価 報告書

令和8年2月27日

○ 本校の概要

○ 学級数 23学級 ○ 児童数725名(令和7年5月現在)  
 ○ 教員数32名 …校長1、副校長1、主幹教諭2、主任教諭8、主任養護教諭1、養護教諭1、教諭20(休業・休職・派遣含む) ○ 行政系職員2名(事務、栄養士) ○ その他、会計年度任用職員・委託・派遣職員  
 ○ 校内研究 研究主題「思考力・判断力・表現力を育てる学習指導の工夫～対話を通して互いの考えを認め合い、問題解決を図る児童の育成をめざして」～おたの未来づくりとその素地を養う各教科の学習を通して～令和6年度「おたの未来づくり」研究実践校  
 ○ 特色ある教育活動 … 馬込の特色を生かした地域学習の充実(町たんけん、安全マップづくり、防災、未来づくりにおける「地域の創生」、タブレットを活用した「馬込家庭学習DX」)  
 ○ 体験活動、人との関わりを大切に活動の重視 ○ 学校運営協議会・地域学校協働本部「スクールサポートまごめ」と連携した教育活動  
 ○ 教員の交換授業(第5、6学年における一部教科担任制)、中・高学年での副担任制の導入 ○ 学びの多様化への対応

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

| 大項目  | 方向性   | 取組内容  | 取組指標                          | 取組評価     | 目標に対する成果指標  | 成果評価              | これまでの取組今後の改善策  | 学校関係者学校運営協議会記入欄 |    |   |                   |                  |
|--|---|---|-------------------------------|----------|---|-------------------|--|-----------------|----|---|-------------------|------------------|
|  |   |   |                               |          |   |                   |  | 評価              | 人数 | コメント  |                   |                  |
| 生予個<br>測別<br>力難<br>をな<br>1育<br>成未<br>来社<br>会を<br>創<br>造<br>的<br>に  | 社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。                  | ①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。                      | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。         | 3<br>97% | C(児童):<br>大田区調査「タブレット端末で情報を収集して、自分の考えをまとめ、発表することができま                              | 4:<br>すべて80%以上    | 今年度、全区展開となった「おたの未来づくり」について、本校では昨年度から研究実践校として先行実施してきた強みを生かし、授業パートナーとの連携等がスムーズにスタートできた。同時に2年目として見出せる課題もあり、児童の創造的な資質・能力の育成という原点にかえて今後のブラッシュアップを図っていく。主体的・対話的で深い学びの実現のために、校内研究においてもこの課題を含めながら特に対話を重視した児童の問題解決能力の向上をめざしてきた。研究授業を一部の教員のみが授業者として行うのではなく、実施方法を工夫して分散しながら全教員で取り組む形にすることで、より課題に対する共通理解が深まるとともに系統的な指導を意識するようになってきている。 | A               | 10 | ・多くの情報の中から適切な事を見取りまわりと協力しながら組み立てていく、大切な事だと思います。学年が上がることでできているように思います。<br>・低学年から基礎をしっかり学べていると思います。身近なことを題材に問題解決など達成感を味わわせてあげてください。<br>・課題解決をする為いくつか異なる教科を結びつけて学習することはとても理想的な学習方法と思っています。<br>・タブレット端末の有効性が高まり児童が社会状況など自分の考えをまとめる力を教員が指導されていることが伺えます。<br>・保護者が何か気になる事や知りたい事が発生した時まず情報を集めます。そういった際、今回の様な学校が発行するアンケート結果、学校のSNS情報などで自分の理解/判断が、バランスがとれているのを感じる時代にし掛かっていると思います。昭和の時代に主流をなしていた2次情報(新聞、テレビ、週刊誌、うわさ話等)に一方的に流されない時代の変化を思っています。<br>・「正解は何?」「どの方向に進めばいいの?」が無い中で、また学校の役割を「児童が価値観を形成するきっかけを与える」と考えたときには十分な取り組みであると考えています。成果が見えるまでには時間を要しますから、まずはこの取り組みを継続してほしいです。<br>・「おたの未来づくり」から自分が住んでいる地域に関心をもつ機会が増えている。<br>・情報ツールを活用していき取り組みは理解しています。が、それを実際の現場に落とし込んでいくためには運用管理の可視化が不可欠です。そこが物足りない印象です。<br>・子どもたちが自ら考え、問い、協力し合う授業づくりは、これからの社会に必要な学びを感じます。  |                   |                  |
|  |   |   | 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 |          |   | 3:<br>すべて70%以上    |  |                 |    |   | C4<br>87%         |                  |
|  |   |   | 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。  |          |   | 2:<br>すべて60%以上    |  |                 |    |   |                   | C<br>87%         |
|  |   |   | 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 |          |   | 1:<br>いずれかでも60%未満 |  |                 |    |   |                   |                  |
| お世個<br>お界<br>た目<br>を<br>つ<br>標<br>担<br>な<br>2<br>う<br>が<br>人<br>材<br>を<br>際<br>育<br>都<br>成<br>市<br>し<br>ま<br>す | 英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。 | ①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。         | 3<br>87% | C(児童):<br>学校評価児童アンケート「外国語を積極的に学び、将来自分の生活や仕事などに生かせるようにしたい」で肯定的回答をした6年生児童の割合        | 4:<br>すべて80%以上    | 外国語・外国語活動を担当する専科教員の体制を工夫し、ALTとの連携を向上させながら常にティーミングができるようにすることで、外国語に親しみ段階・外国語を学ぶ段階の高水準での活動の充実を図ってきた。継続的に進んでいるグローバルキッズクラブ(英語クラブ)、グローバルフライデー(英語での校内放送)のほか、イングリッシュキャラバン(英語)の活用や外国の学校とのオンライン交流など、多彩な活動に取り組んでいる。外国語の日常化を図るために、新たな掲示物などの校内環境の整備も行ってきている。同時に我が国の伝統文化などにも触れる機会を国語、社会科、音楽などの様々な教科指導を通して行ってきた。                         | A               | 9  | ・外国語に普通になれていく事にとてもよいことです。まして年齢が若ければ若いほど吸収が早いと思います。これからも期待しています。<br>・児童が外国語に抵抗を感じずに楽しみ親しんでいる様子が見られます。今後海外の方との活発な交流が継続されることを願っています。外国語と同様に郷土の伝統、文化を理解する活動についてもより拡充することを期待します。<br>・児童が外国の文化に親しめる様に授業以外でも給食等にも取り入れ素晴らしいと思います。自分の暮らす町のことも自信をもって伝えられる様に期待しています。<br>・今は身近に世界と繋がっているように感じます。馬込地域の多くの家庭の教育の中に「他人に迷惑を掛けない!」自分の事として対人関係を思いやるといったことが土壌につながっていると思います。その姿勢はどんな世界にも適用する。ふだん気づかない大きな財産であります。海外に出た時に多くの失敗、経済的な損失が必ずあると思いますがそのさまざまな経験が「生きる力」に成長すると思います。<br>・「英語」は意思疎通の手段だけでなく、目的に設定してはなりません。コミュニケーションを行うためには自国の文化や歴史に対する自分の価値観に基づいた考え方をすることが不可欠です。親世代の情報リテラシーに大きな疑問が残る中で評価を高める努力により、自国の文化や歴史をしっかりと学んでいただくことが次世代を担う児童の役に立つと思います。引き続き現在の取り組み継続をお願いします。<br>・外国語教育について活発に実施しているのに保護者に響いていないことがなんとも悔しいです。現在以上に積極的に発信していく必要があるかもしれません。<br>・英語に触れる機会や外国人との触れ合いで子どもたちの興味も深まっていると思う。<br>・言語能力向上と併せて他国の文化や価値観を知る、理解することは今後のことと私たちの社会で視野を広げるのに役に立つと感じます。   |                   |                  |
|  |   |   | 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 |          |   | 3:<br>すべて70%以上    |  |                 |    |   | C4<br>87%         |                  |
|  |   |   | 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。  |          |   | 2:<br>すべて60%以上    |  |                 |    |   |                   | C<br>72%・76%     |
|  |   |   | 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 |          |   | 1:<br>いずれかでも60%未満 |  |                 |    |   |                   |                  |
| た一個<br>人別<br>の目<br>基と<br>標<br>礎<br>り<br>3<br>が<br>個<br>性<br>力<br>と<br>能<br>力<br>を<br>発<br>揮<br>す<br>る          | 児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。                          | ①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。                      | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。         | 4        | C(児童):<br>学校評価児童アンケート「授業で学習したことがよくわかる」・「自分や友達のことを大切にしている」・「運動が好きです」で肯定的回答をした児童の割合 | 4:<br>すべて80%以上    | 学校教育の根幹である「知・徳・体」のバランスの良い育成については、児童、保護者とも高い成果評価を得ることができた。肯定的回答率は「自分や友達のことを大切にしている」・「自分が友達のことを大切にしている」・「運動が好きです」で肯定的回答をした児童の割合  | A               | 11 | ・公開授業、運動会、音楽会など見せていただきました。どの学年ものびのびしていき温かい気持ちになりました。<br>・「徳」について道徳の授業や「心のたね」の発言など学校の努力は評価されるものだと思います。なおさら学校だけではなく家庭、地域が一体となり児童の心育てていく必要があると感じています。「体」については運動会での縄跳びを使った演目など家庭で手軽にできるものを取り入れ、保護者にも見ていただく効果的だったのではないかと思います。<br>・基本的な生活習慣の確立は各家庭の協力がとても必要と思っています。<br>・プール使用では学校の努力でも有効な活用ができたと感じます。そのことがアンケートからもわかります。<br>・今後学校、家庭、地域が一体となり児童の心の教育を行うことの大切さを感じます。<br>・教員の方々が児童の目線に合わせて児童が困った事や大人にとっても小さいことを聞き取るよう努力している。授業参観でも伝わって来るとは「どんなに小さく思えることも聞いてくれる人がいる」という教室の中にある安心感です。<br>・「健やかな魂は健やかな肉体に宿る」という言葉がありますが、御校の取り組みからこれ「明確に読み取れます。先の言葉を常に意識して現時点の取り組みを継続されれば成果はさらさら上がると感じます。そして「魂」の部分については、ある時期(多分親世代)には道徳教育が存在しなかったため「して良いこと、悪いこと」の判別「自分方は悩まれていることと相手に対してはするな」で「先方がされていかなことと相手に対してはするな」でしよう。「からかうこと」と「人権侵害行為」の明確な境界線が無いことと、まずは論理線の形成こそから発展して道徳心の形成という順序で取り組まれるのも良いかとも感じます。<br>・学校の評価におおむね同意します。「アウトプットの機会が、学校としては課題に感じていることも多い。学習内容の確実な定着のために児童一人一人のアウトプットの機会を充実させることも主目的な学びを支える学習習慣の一層の向上をめざす。 |                   |                  |
|  |   |   | 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 |          |   | 3:<br>すべて70%以上    |  |                 |    |   | C4<br>91%・96%・82% |                  |
|  |   |   | 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。  |          |   | 2:<br>すべて60%以上    |  |                 |    |   |                   | C<br>91%・93%・91% |
|  |   |   | 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 |          |   | 1:<br>いずれかでも60%未満 |  |                 |    |   |                   |                  |

|  |   |   |   |              |  |                   |                                     |  |   |    |  |
|--|---|---|---|--------------|--|-------------------|-------------------------------------|--|---|----|--|
| 学<br>校<br>別<br>力<br>目<br>・<br>標<br>教<br>師<br>力<br>を<br>向<br>上<br>さ<br>せ<br>ま<br>す  | 校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上させます。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。 | ①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。                                    | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。             | 3<br>97<br>% | C(児童):<br>学校評価児童アンケート「学校生活は楽しいで肯定的な回答をした児童の割合」<br><br>P(保護者):<br>学校評価保護者アンケート「お子さんは、楽しく学校生活をすごしている」・「教員は、教方(授業の内容や方法等)を工夫している」に肯定的な回答をした保護者の割合                       | 4:<br>すべて80%以上    | 4<br><br>C4<br>91%<br>P4<br>95%・89% | 校内研究では「思考力・判断力・表現力を育てる学習指導の工夫～対話を通して互いの考えを認め合い、問題解決を図る児童の育成をめざして～」を主題とし、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を含めた授業改善に努めた。学校としての研究への取組と人事考課に伴う管理職による年3回の授業観察をリンクさせることで、各教員の負担を軽減させつつも研究の充実や教員一人一人の授業力向上につなげる工夫に取り組んでいる。また、OJTや夏季休業に行った「持ちネタワークショップ」、自主的な実技研修等、各教員の専門性の伝達や若手教員のニーズに応える、形式にとらわれない多様な校内研修を充実させることができた。これらは教員の同僚性の向上といった面でも意義あるものとなった。<br><br>業務の適正化については、学校行事を含む教育課程や校務内容、組織の見直し、柔軟な指導体制や支援員等の有効活用等を通じて進めている。   | A | 10 | ・「持ちネタワークショップ」とも楽しく拝見させていただきました。先生方とお話できた事もよかったです。<br>・学校は児童だけではなく教職員の方々あつての学校なのだとあらためて気づきました。業務の適正化を進めやすい環境を持っていただけているのならばうれしいです。<br>・先生方自身が楽しそうにイキイキと児童と接している姿がもともと増えることを期待しています。<br>・児童が楽しく授業が出来て学校生活が楽しいと回答され、教員の方々が日々研究されていることが伺えます。<br>・教員も児童もとても自分の好きなことを行っている時の表情は輝いています。あるクラスで見かけたことですが3人の教員が授業中「困ったちゃん」がいて3人で目くばせ(アイコンタクト)して同時に役割分担を行って想定外に楽しい雰囲気を作っていました。団体スポーツの訓練を思い出しました。<br>・これまでの取り組みが正しかったことが証明されたことがアンケートに表れているのだと思います。この機会に業務の適正化(効率化)への「ワーウエイ」(注力度合い)を高めると先生方の負担軽減につながると思います。経営者に近い管理監督者としてはつらいかもしれませんが「しなくて良いこと」を決めてあげると業務効率化の機会が生まれやすいと思います。ご参考:経営者は「やること」を決めた方が改革の時は「やらないこと」を決めることが重要。これをしないと部下が疲弊するだけになってしまい改革が進まない。<br>・8月の拡大学校運営協議会で先生方がいろいろご指導を工夫されていること、それを校内研修会で共有されていることを拝見し、いい取組みだと感じました。<br>・先生方のそれぞれのご尽力のおかげさまで、日々コミュニケーションの中でOJTの積み重ねがチーム力の強化につながっているのではないかと感じます。 |
|  |   | ②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特徴を生かしたりして教育活動を行っている。  | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。             | 3<br>97<br>% |  | 3:<br>すべて70%以上    |                                     |  |   |    |  |
|  |   | ③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。                                  | 4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。<br>1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。 | 4            |  | 2:<br>すべて60%以上    |                                     |  |   |    |  |
|  |   |   |   |              |  | 1:<br>いずれかでも60%未満 |                                     |  |   |    |  |
| た<br>自<br>個<br>め<br>分<br>別<br>の<br>学<br>校<br>力<br>を<br>い<br>き<br>支<br>え<br>い<br>き<br>ま<br>す  | 困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ること、すべての児童・生徒が自分らしく生き生きと学ぶための学びを支援します。                       | ①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。                      | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。             | 4            | C(児童):<br>学校評価児童アンケート「先生は、わからないことや困ったことがあるときに、助けてくれたり相談のつてくれたりする」で肯定的な回答をした児童の割合<br><br>P(保護者):<br>学校評価保護者アンケート「学校は児童や保護者の困りやニーズ等に対し、適切な対応・支援に努めている」に肯定的な回答をした保護者の割合 | 4:<br>すべて80%以上    | 4<br><br>C4<br>89%<br>P4<br>87%     | この目標に対する本校教職員の取組評価は非常に高い。また児童や保護者のアンケートでも9割近い肯定的な回答を得ることができた。学校生活調査やいじめアンケートの実施結果等を踏まえて個別の面談を行うことにより、児童や保護者の困りや不安などに適切に対応し、望ましい生活へとつなげられるように努めてきた。必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等との連携を図るとともに、教育センター、学校危機対応支援専門員、サポートルーム巡回指導教員や巡回心理士等からの専門的な観点からの助言を受け、支援員等の効果的な配置や必要となる対応を進めてきた。<br>不登校傾向のある児童への対応として、別室学習の環境整備を行い、それが拠り所となっていく登校につながる児童も見られる。不登校児童への実態は様々ではない。保護者のニーズ等も踏まえながらそれぞれの児童に応じた望ましい在り方を今後も検討していく。<br><br>特別支援教育コーディネーターが中心となって担当する校内委員会や、生活指導部によるいじめ等の問題行動、不登校に関する対応を検討するための委員会を定期的に行い、問題の共有や対応の検討などを組織的・計画的に行ってきたことも効果を上げてきている。 | A | 11 | ・難しい問題ですが専門的な観点からの助言を受けての配慮をしていただけたと思います。一人ひとりに寄り添ったご指導これからもお願いいたします。<br>・学校の取り組みに感謝します。<br>・様々な分野の専門の教職員の方々一人ひとりに対応され支援をされている事は素晴らしいことと思っています。<br>・いじめの根絶は困難と思いますが専門家との連携により取り組まれていると思う。<br>・児童一人一人に教職員が対応していると思う。<br>・信頼関係が成立しているかどうかの要素が大きいのと思います。困った事を抱える児童が相談しやすい信頼できそうな大人、友人だけとは違います。とても時間が掛かることですがアンテナを張りすぎず絶えず折りたたくように心したいものです。<br>・ちょっとした躰で大幅な遅れを背負うてしまうことが多い時代においては困難がつきまう取組みだと思います。先生方は「気づき」にスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーは「対処」に、この役割分担を明確化すると、さらに効果が出やすいのではないのでしょうか。そのためには協議会委員を含む関係者のレベルアップが不可欠です。これも取組みに加え(または取組みで)「地域社会と共によりレベルアップ」につながるように思います。<br>・教員の評価と児童の評価が関連しており適正。今後も児童に寄り添うことを期待しています。<br>・多様な一人一人に応じた支援体制が構築されていて、安心して学べる環境づくりが進められていると感じます。   |
|  |   | ②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。  | 4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満の教員が回答した。<br>2:60%以上80%未満の教員が回答した。<br>1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。                     | 4            |  | 3:<br>すべて70%以上    |                                     |  |   |    |  |
|  |   | ③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。             | 4            |  | 2:<br>すべて60%以上    |                                     |  |   |    |  |
|  |   |   |   |              |  | 1:<br>いずれかでも60%未満 |                                     |  |   |    |  |
| 安<br>心<br>教<br>育<br>目<br>的<br>で<br>創<br>造<br>的<br>な<br>学<br>習<br>環<br>境<br>を<br>つ<br>く<br>り<br>ま<br>す  | 学校施設についての、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。   | ①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。   | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。             | 3<br>93<br>% | C(児童):<br>学校評価児童アンケート「きまりを守って、安全に行動している」で肯定的な回答をした児童の割合<br><br>P(保護者):<br>学校評価保護者アンケート「学校は児童が安全・安心に生活するための環境づくりや、避難訓練を含む安全教育的工夫・充実」に努めている」で肯定的な回答をした保護者の割合           | 4:<br>すべて80%以上    | 4<br><br>C4<br>89%<br>P4<br>93%     | 校舎の増築、給食室やプールの改修といった工事がひと段落し、昨年度までより落ち着いた環境で学校生活を送ることができるようになった。校舎や設備等の古さに対する保護者意見もあつたが、全体では児童、保護者とも約9割の肯定的な回答を得ることができた。今後も学校努力で改善できる部分については対応していきたい。<br>安全教育に関しては、今年度も力を入れた。特に災害安全領域では、避難訓練をより実践的なものとなるよう工夫し、想定を多様化させ教職員や児童の判断力や主体性を育てる内容にブラッシュアップを図るとともに、学校広報を通じて保護者等への啓発を心がけている。<br><br>児童間のSNS等のトラブルが散見された。安全指導や情報モラル指導を計画的に行っているが、実態に応じた指導の質的向上に努めていく。  | A | 11 | ・地震、豪雨などの自然環境が違ってきているように思います。これからも子供達の安全、安心をよろしく願っています。<br>・災害時の地域の協力、役割についてももっと児童、家庭に理解してもらおうと考えています。<br>・ホームページの馬込の日々より学校は様々な安全対策が実施されよりスキルアップもされている様です。<br>・首都直下型地震の可能性も高まる今日、避難訓練の重要性、危険性のあるもの対策、準備の重要性が益々高まっています。家庭内でも学校内でも注意して生活し、増築改修工事が終わり、落ち着いた学校生活に取り組んでいきたいと思います。<br>・地域にとって小学校の大きな重要性の1つ「場所の確保と維持」があると考えます。年齢を問わず誰が行ける何か楽しいことがあると思う人が多いです。馬込小には20年以上引き継がれている春と秋のお祭り、夏のわくわく等が、物事の限度がわからず走りやすいことです。「自分が信じたいこと」「自分に心地よいこと」ではなく「何が真実か」を見極める眼を養うことで「何を信じるべきか」を把握しやすくなるでしょう。「自分の目で見たものを信じる」「これらと整合が取れない言動は裏付けを取る」が習慣化されると良い判断ができるようになるでしょう。「自立と自律」を意識しつつ「真実は常に一つどこかで聞きたらね」が定着するように指導を心掛けていただくと児童たちの眼も養われると思います。<br>・情報ツールを教育に取り入れる以上、リテラシー教育は必須であると考えます。これは今後も課題感をもっているべきです。<br>・ICTは整備されているだけでなくいかに活用できていて、安心・安全にされているかがポイントなのかもしれません。  |
|  |   | ②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。   | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。             | 4            |  | 3:<br>すべて70%以上    |                                     |  |   |    |  |
|  |   |   |   |              |  | 2:<br>すべて60%以上    |                                     |  |   |    |  |
|  |   |   |   |              |  | 1:<br>いずれかでも60%未満 |                                     |  |   |    |  |
| 学<br>地<br>学<br>校<br>校<br>別<br>を<br>コ<br>・<br>目<br>的<br>家<br>庭<br>ク<br>リ<br>ン<br>作<br>戦<br>に<br>よ<br>り<br>地<br>域<br>の<br>核<br>心<br>と<br>し<br>て<br>協<br>働<br>に<br>よ<br>る | 地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。                          | ①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。   | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。             | 2<br>79<br>% | C(児童):<br>学校評価児童アンケート「学校や地域のことが好き」で肯定的な回答をした児童の割合<br><br>P(保護者):<br>「学校は地域と連携した活動を推進するとともに、おたよりやホームページ等を通じて教育活動についての情報発信に努めている」で肯定的な回答をした保護者の割合                      | 4:<br>すべて80%以上    | 4<br><br>C4<br>88%<br>P4<br>94%     | 学校運営協議会が、地域の特性や本校の独自性を生かした形で充実したものとなってきている。<br>この協議会が、児童や学校の教職員にとってもより身近な存在となるようにしたい。また、一層地域に開かれ地域に根ざした学校でありたい。そのような願いの原点となるよう、今年度は「拡大学校運営協議会」を企画し、協議会の委員各位と教職員とがざっばらんに話し合いができる機会を設けた。今年度の協議会を通じて新たな活動「馬込グリーン大作戦(3年)」を創出し、実現することができた。児童アンケート「学校や地域のことが好き」で、地域の方との関わりをもちながら学習した3年と6年の児童の肯定的な回答率が特にかつた(3年94%、6年89%)のは、とてもよかった。<br>学校広報を通じて教育活動を理解したり共感したりすることで本校の取組を肯定的に認識して下さっている保護者は多い。学校のことが家庭での親子の話題となるのも望ましいことである。今年度は配布文書のデジタル化も推進した。学校広報の意義を大切にしつつ、学級通信等も含め、それぞれの教員の過度の負担にはならないように配慮していく必要がある。  | A | 11 | ・ラジオ体操、防災訓練、学校と地域と連携して活動ができたと思います。地域の方と子供達もつとふれあう事ができるよ～と思っており。<br>・3年生が「馬込グリーン大作戦」をおこない地域のことが好きと回答したことはたいへんよろこばしいことだと思います。家庭教育については各家庭がその重要性や本質を理解し、学校と連携しあえるよう一層よいものになると思います。<br>・先生方も地域の方々へ目を向けてくださり児童も地域のことに興味を持つようになったこと大変うれしく思っています。<br>・ホームページやテトルでのご案内など大変だとは思いますがとても高い評価ができています。<br>・学校、家庭、地域の連携と協働がよくなっていると思います。<br>・馬込小の特徴の1つに保護者に過度の期待をしてしまう、いつの間にかだれもいなくなるという苦い経験がありました。過度の負担と同じで馬込らしい塩梅が「心地よい」と考えます。<br>・児童の自主性が大変高まっていることで、これまでの取組が正しかったことは証明されました。今後は今の勢いを止めないことが地域との共生に役立つと思います。特にグリーン大作戦が行った児童も課題感を持ち、地域も歓迎するwinwinの結果を勝ち得ました。児童が今度の社会での活躍にこの自主性を発揮してくれることに大きな期待を持っています。ぜひ続けてください。<br>・CSに関して立上げ初年ということで学校と地域の「交流活動」にとどまらずに印象が残りやすいため、もっと共働して何かできないか。今後の課題であると思っています。<br>・学校運営協議会を通して、学校と地域の連携が一層強まることを期待しています。<br>・安全に地域に開かれた学校としてご理解ご協力に感謝しております。                              |
|  |   | ②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。   | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。             | 3<br>90<br>% |  | 3:<br>すべて70%以上    |                                     |  |   |    |  |
|  |   | ③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。  | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。             | 4            |  | 2:<br>すべて60%以上    |                                     |  |   |    |  |
|  |   |   |   |              |  | 1:<br>いずれかでも60%未満 |                                     |  |   |    |  |

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。